

# 「名古屋城バリアフリーに関する説明資料」

【アンケート調査用】



【将来の名古屋城本丸の姿】

# 目次

1. 趣旨
2. 名古屋城天守木造復元の概要
  - ・ ガラス乾板写真の往時の姿と完成予想図
  - ・ 残された豊富な史資料
  - ・ 名古屋城天守の歩み
  - ・ 現在の天守閣と復元する天守の違い
  - ・ 復元する天守の階段
3. 昇降技術の概要
  - ・ 昇降技術に関する公募の概要
  - ・ 導入する昇降技術の紹介
4. 復元する木造天守への昇降技術設置イメージ
  - ・ 大天守地階
  - ・ 大天守1階

## 1. 趣旨

名古屋城天守は、1612年（慶長17年）に完成し1930年（昭和5年）に城郭建築として**旧国宝第1号**に指定されましたが、1945年（昭和20年）に戦災により焼失しました。その後、1959年（昭和34年）に現在の鉄骨鉄筋コンクリート造で再建されましたが、半世紀以上が経過し、コンクリートの劣化や設備の老朽化、耐震性の確保等様々な問題が顕在化しています。

天守を木造により復元する名古屋城天守閣整備事業は、このような現天守閣の課題を解決するだけでなく、**先人が残してくれた他の城郭には無い豊富な史資料を基に往時の姿に復元**できることから、**再度「国宝」**になることを目指し、**名古屋市民の誇り**と言える名古屋城天守を実現していきたいと考えております。

その一方で、バリアフリーへの対応をどのように行っていくかは大きな課題であることから、2018年(平成30年)に本市が公表した「木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針」に基づき検討を進めてまいりました。昨年度(令和4年度)「名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募」を実施し、**木造の柱・梁に影響を与えない、かつ、取り外し可能**な技術を国際的に募集し最優秀者を決定したところです。

今回のアンケートは選定された最優秀者の昇降技術の詳細と木造天守に設置された場合にどのようなになるのか等の情報をお知らせし、みなさまのご意見をお伺いするものです。

趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

## 2. 名古屋城天守木造復元の概要

- ガラス乾板写真の往時の姿と完成予想図



(ガラス乾板写真)

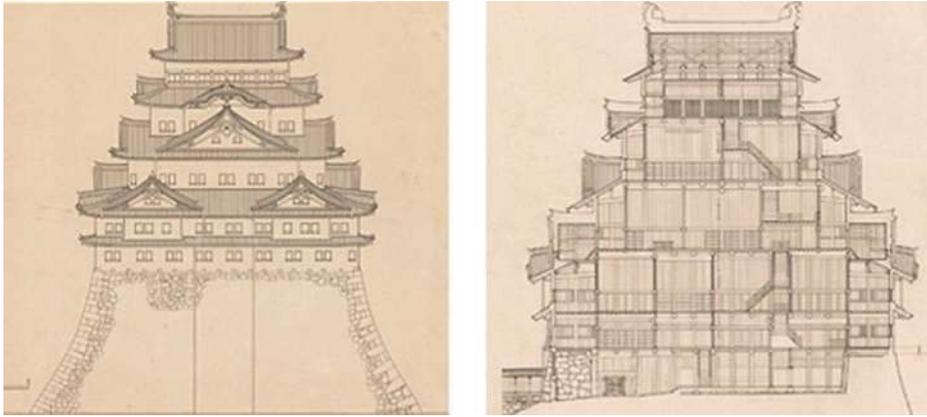
300年以上存続し**旧国宝第1号**  
に指定された名古屋城天守の姿



(竹中工務店作成完成予想図)

豊富な史資料と最新の技術により  
**史実に忠実な木造復元**

• 残された豊富な史資料



昭和実測図



ガラス乾板写真



金城温古録

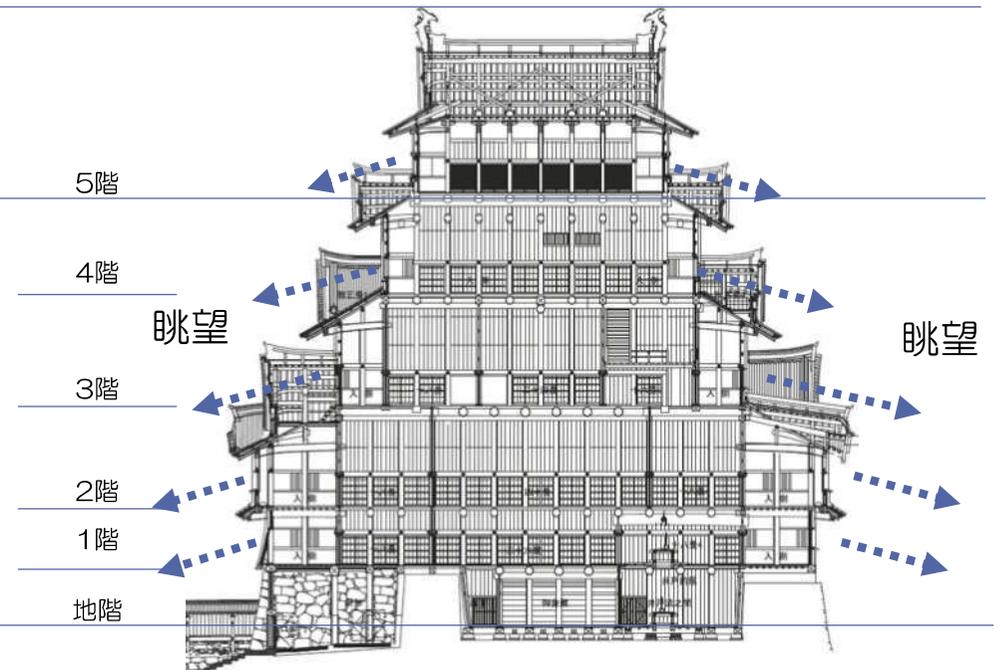
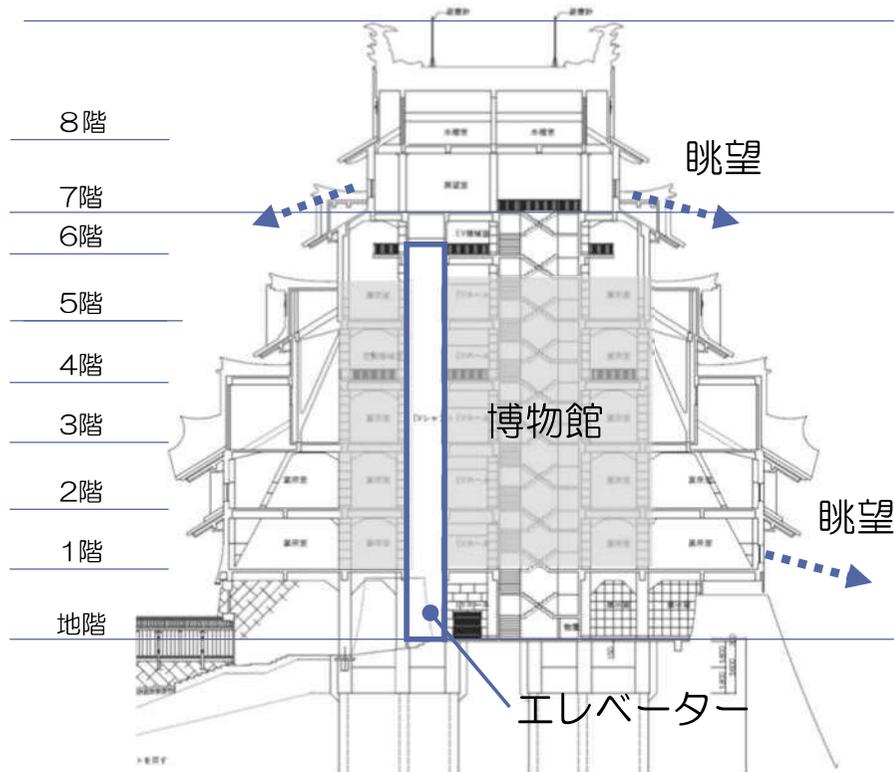
- 名古屋城天守の歩み

時 期		内 容
慶長15年	1610年	徳川家康の命により築城に着手
慶長17年	1612年	天守が完成
明治 5年	1872年	陸軍省の所管となる
明治26年	1893年	宮内省に移管され名古屋離宮となる
昭和 5年	1930年	宮内省から名古屋市に名古屋城を下賜 天守等が城郭として国宝第1号に指定（旧国宝）
昭和 7年	1932年	名古屋城の実測調査開始 （昭和27年(1952年)に「昭和実測図」が完成）
昭和20年	1945年	第二次大戦中の空襲（5月14日）により焼失
昭和34年	1959年	鉄骨鉄筋コンクリート造天守閣再建
平成21年	2009年	本丸御殿復元に着手
平成30年	2018年	本丸御殿が完成

- 現在の天守閣と復元する天守の違い

現在の天守閣  
(鉄骨鉄筋コンクリート造)

復元する天守  
(木造)



- 内部は博物館
- 眺望（外を見ることができるの）は1階北側、東側と7階から
- 地階から5階までエレベーター設置

- 往時の姿を復元した内部空間
- 1～5階のすべての階から眺望

- ・復元する天守の階段

地階から5階（最上階）まで階段の段数126段



「名古屋城木造天守閣階段体験館」  
に設置されている実物大模型の階段  
（木造天守の1階から2階の階段）

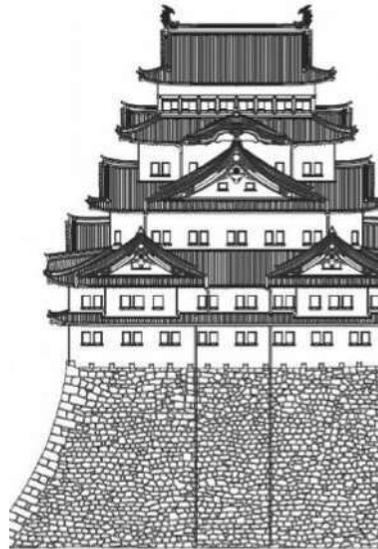


焼失した大天守の最上階の階段  
（ガラス乾板写真）

### 3. 昇降技術の概要

- 昇降技術に関する公募の概要

想定される技術（公募資料より抜粋）



5階	技術例： •大天守の内部を垂直に昇降する技術 •大天守の階段を直接昇降する技術 •外部から直接大天守1階以上に入城できる技術  等 幅広く技術を募集
4階	
3階	
2階	
1階	
地階	
地上	地上から大天守地階までのバリアフリーは 景観に配慮したスロープにて対応

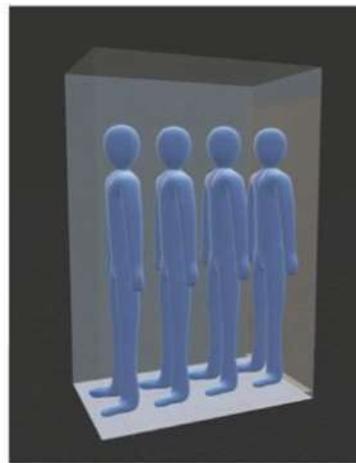
#### 要求水準の主な内容

- 少なくとも大天守1階に昇降ができること
- 柱や梁などの主架構を変更しないこと
- 取り外すことにより、史実に忠実な状態に戻すことができる設置手法とすること

- ・導入する昇降技術の紹介

最優秀者  
株式会社MHIエアロスペースプロダクション

- ・地階から1階、1階から2階といったように、1階ずつ乗り換えて昇降する技術
- ・定員4名または車いす利用者1名と介助者1名が搭乗可能
- ・木造の柱・梁を取り除かずに設置できるよう小型化
- ・取り外すことで、史実に忠実な状態に戻すことが可能



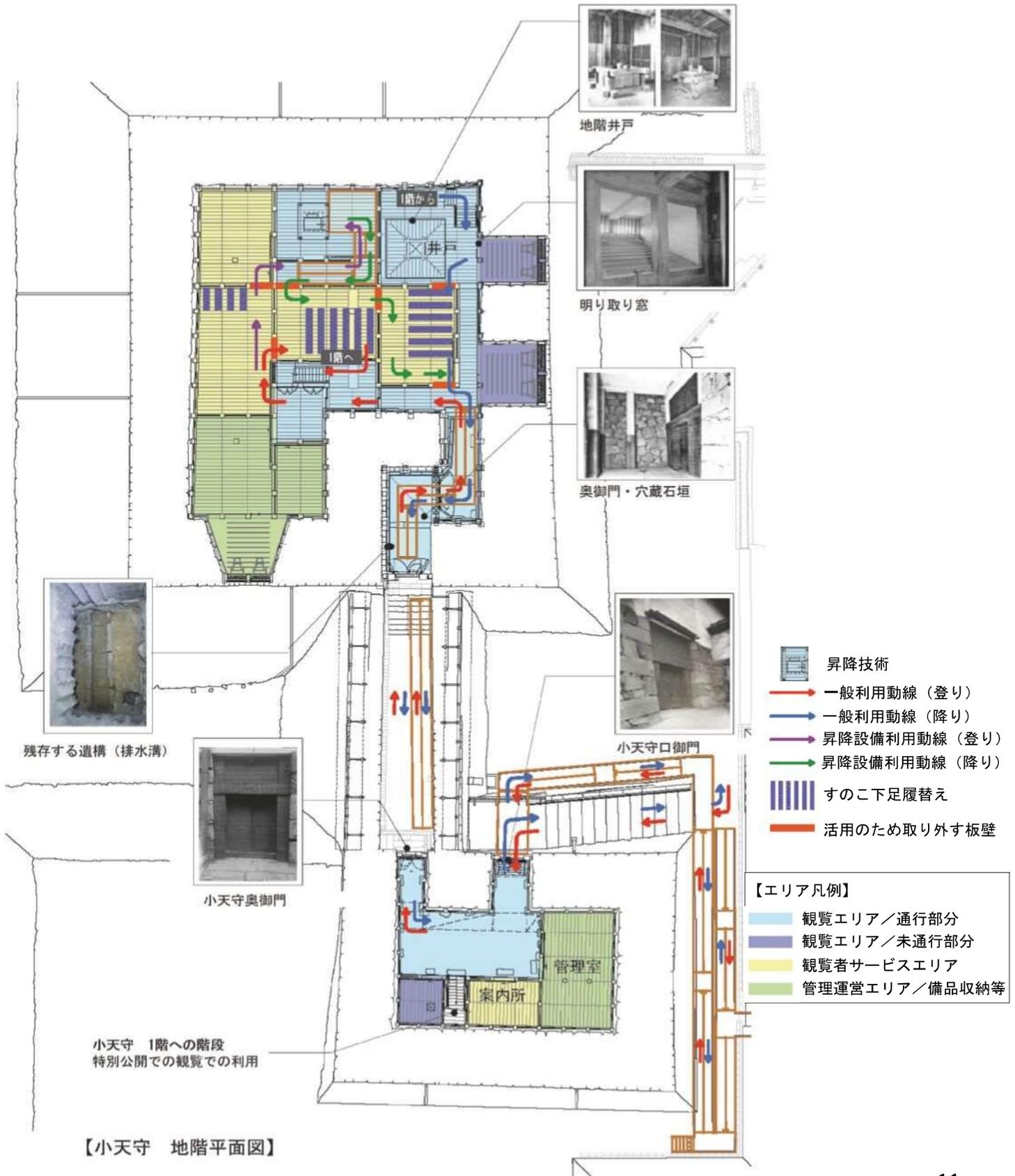
昇降技術の搭乗イメージ



船舶への導入実績

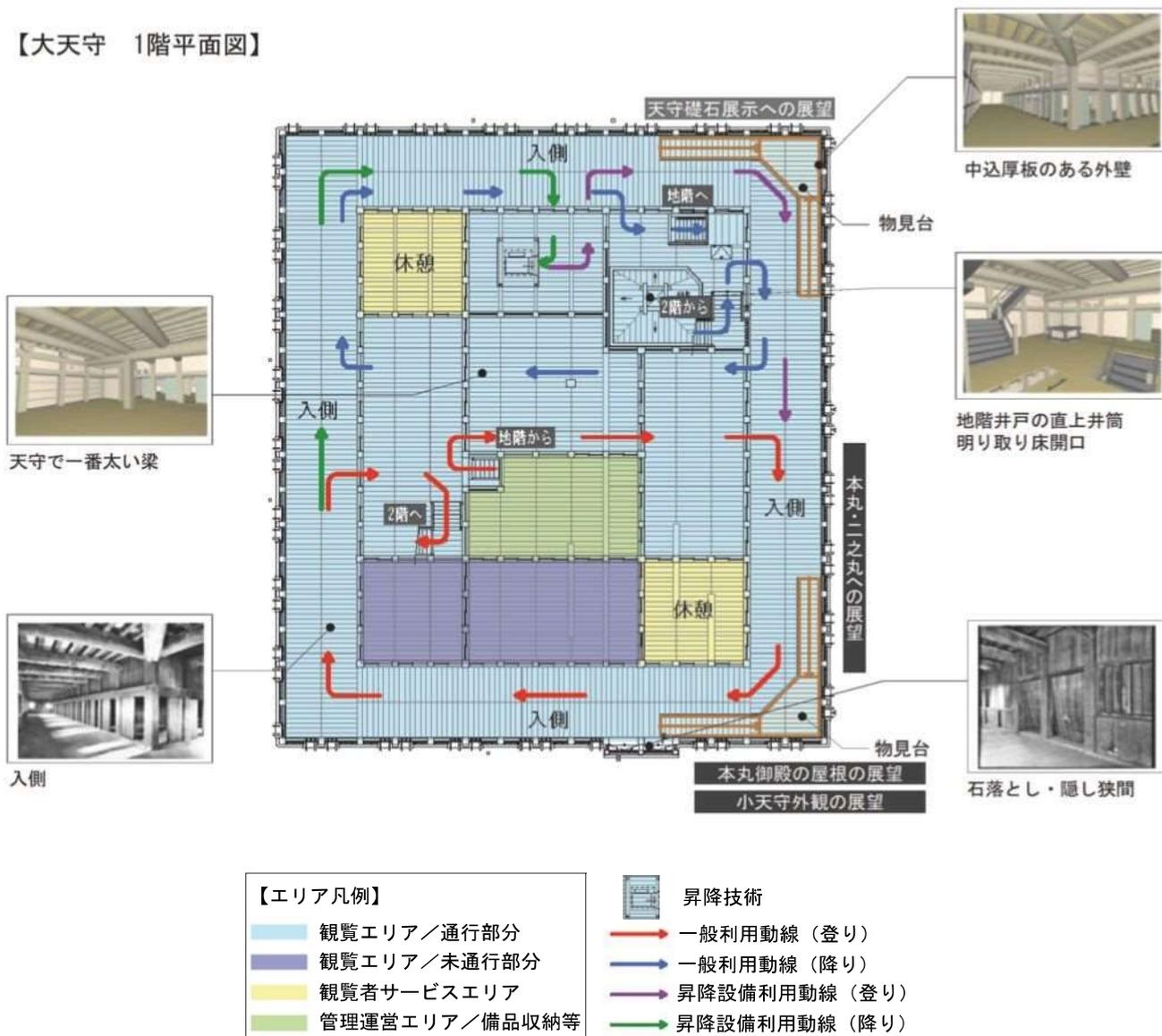
# 4. 復元する木造天守への昇降技術設置イメージ

## ・大天守地階



# ・大天守 1階

【大天守 1階平面図】



より上層階へのバリアフリー対応については、今後継続して検討してまいります。

特別史跡  
名古屋城  
NAGOYA CASTLE